

「特別の教科 道徳」の評価について

【道徳科の評価の在り方】

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
 - ※ 大きくくりなまとまりとは、学期や年間でのまとまりのこと。「A 主として自分自身に関すること」などの内容項目のまとまりではない。
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方へと発展**しているか、道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにすること

平成 28 年 7 月 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/08/15/1375482_2.pdf



Q. 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている子どもの姿とは、どのようなものですか？

A. 具体的な例として、次のような児童生徒の姿が考えられます。

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を、様々な視点から捉え考えようとしている。
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において、立場によって取り得る行動が違うことの背景を考えようとしている。



Q. 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている子どもの姿とは、どのようなものですか？

A. 具体的な児童生徒の姿として、次のような例が考えられます。

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・現在の自分自身と照らし合わせながら、教材に出てくる人物等が自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する活動を通して、道徳的価値の理解をさらに深めている。
- ・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

■関連資料

- 教育基本計画指標（県学習状況調査質問紙調査）

指 標	現 状	令和 7 年度の目標
「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」との質問に、「思う」と回答した児童生徒の割合	小学校 5 年生 77.2% 中学校 2 年生 76.1%	現状を上回る水準

- 平成 31 年 2 月 「道徳科の授業づくりと評価」リーフレット

【理論編】



https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/15170/1_leaf-riron_1.pdf

【実践編】



<https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/15170/doutokuhyoukajissen2>